

中学生への体験講義・キャンパスツアーの実施

「鹿児島県の近現代」教育研究センター 副センター長 松田 忠大

「鹿児島県の近現代」教育研究センターは、鹿児島県の歴史、文化、自然などの地域資源を教育研究に活用し、その成果を地域に還元することを目的としている。この目的を達成するため、地域が有する資源のほか、鹿児島大学が有する様々な資源を小中高校における教育に活用してもらうための取組も進めている。

この取組の第一弾として、令和6年5月11日に、山脇学園中学校（東京都）の3年生、44名を受け入れ、生徒を対象とした2コマの体験講義とキャンパスツアーを実施した。同校の生徒たちは、本学に到着後、農学部長の寺岡行雄教授による「世界自然遺産屋久島の歴史と課題」というテーマでの講義につづき、大木公彦名誉教授による「鹿児島は自然科学の宝庫」というテーマでの講義を受講した。講義受講後には、本学郡元キャンパス内におけるキャンパスツアーに参加し、学内を歩きながら、およそ40分間、林園や総合研究博物館をはじめ本学の教育研究施設等を見学した。

キャンパスツアーの実施にあたっては、英国ロンドン市公認ガイドの資格を有する前園晃慶氏（ドイツ銀行コーポレートバンク本部事業法人営業部長）に、ルート設定等についてアドバイスをいただいた。また、前園氏、近現代センタースタッフのほか、法文学部の学生もキャンパスツアーのガイド役を務めた。

近現代センターでは、9月にも東京の中学校の修学旅行の受け入れを予定している。今後は、鹿児島県、鹿児島市など地方自治体と協力して、地域資源を活用した教育旅行への支援のほか、一般観光客向けの観光パッケージの開発にも取り組んでいく予定である。

